



《冬場に多い病気》

猫の下部尿路炎症 ~結晶尿・尿路結石が主因となるものについて~

今回は、冬場に多い病気として、猫の下部尿路炎症のうち、結晶尿や尿路結石が主因となるものについてお話ししたいと思います。猫の下部尿路炎症は、頻尿、血尿、排尿困難、尿路閉塞などの症状によって特徴づけられ、その多くにストルバイト（りん酸アンモニウムマグネシウム）やシュウ酸カルシウムなどの結晶・結石の存在が認められ、それらが膀胱や尿道を刺激したり、細菌感染と伴ったり、粘液等と混ざって栓となり、尿道に詰まったりして、発症します。

これらの結晶尿や尿路結石は、もともとネコちゃんによくみられますが、特に冬場は気温の低下による飲水量の低下、それによるおしっこ濃縮などにより、発症が多いと言われています。

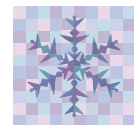
< 病因 >

- ・食物、尿 pH、飲水量、肥満、品種、感染、その他(トイレの汚れ、ストレス、先天性膀胱奇形)など、さまざまな要因が関与しており、いまだ不明な部分も多い。
- ・代表的なストルバイト結晶・結石の発生に、マグネシウムの摂取量が関与することが知られている。
- ・尿 pH は重要要因であり、ストルバイト結晶・結石は、アルカリ尿中でより進展し、尿を酸性化することでより溶解する。逆にシュウ酸カルシウムは、酸性尿中で生成のリスクが高くなる。
- ・一般的に、飲水量が少ないと尿量が低下して濃縮尿となり、結晶・結石が生成されやすい。
- ・パーミーズ、ヒマラヤン、ペルシャではシュウ酸カルシウム尿石の発生が多い。

< 症状 >

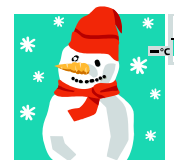
尿路閉塞がない(おしっこが出て)場合

- ・頻尿（頻繁におしっこする）
- ・血尿
- ・(有痛)排尿困難
- ・不適切な場所(トイレ以外)での排尿



尿路閉塞ある(おしっこが出ない)場合

- ・何度も排尿を試みる(しかし、出ない)
- ・歩き回る、鳴く、陰部をなめる
- ・嘔吐
- ・食欲・元気の低下 時間が経つにつれ、衰弱、虚脱し、死に至る。
- ・突然死



< 飼い主の対応 >

- ・上記の症状がみられたら、排尿の有無・量を確認し、なるべく早く動物病院を受診すること。
- ・尿路閉塞が疑われる(おしっこが出ていない)場合、緊急性が高いことを認識する。

以上、結晶尿・尿路結石は、ネコちゃんに比較的身近でありながら、尿路閉塞を伴う(特にオス猫はリスクが高い)と、命を脅かす状態であることを理解してください。

予防のためにできることとして、常に飲みやすい新鮮な飲み水を用意し、特にドライフードを与えている場合や冬場は飲水量に注意してください。その他、トイレは使いやすく綺麗に保つ、なるべくストレスを与えない、定期的な尿検査などをお薦めします。

